

復興を支えた大きな力 応援職員離任式



3月末をもって離任する全国からの応援職員5人の離任式が3月26日、市役所で開かれました。

離任する職員を代表し高橋ひろみさん（愛媛県西条市）が「慣れない環境の中ではありませんでしたが、多くの方に温かく受け入れていただき、任務を遂行することができたことに感謝しています」とあいさつしました。

立谷市長は「皆さんが相馬市に多くの足跡を残したこと、相馬市で経験したことをふるさとでも伝えていただくとともに、それぞれの市での災害対応に役立ててください」と地元自治体を離れ相馬市の復興に尽力いただいたことに感謝を述べました。



地域防災力強化の一助に 認定証交付式

市消防団協力事業所認定証交付式は3月27日、市役所で行われ、認定を受けるために株式会社MYSの湊尚哉代表取締役と佐藤栄一課長が訪れました。

同制度は平成22年4月から開始し、市消防団活動に積極的に協力している事業所などを認定するもので、消防団員が企業の中で活動しやすい体

制づくりや団員の確保、地域防災力強化を目的としています。

有効期限は2年間、2021年3月27日まで。

立谷市長が認定証を手渡し、「有事の際に限らず、平常時も自覚と防災意識をもって事業に励んでください」と述べました。



春の熱い戦い パークゴルフ選手権大会

第12回東日本パークゴルフ選手権大会は4月7日、相馬光陽パークゴルフ場で開催されました。

岩手県、宮城県、山形県などのパークゴルフプレーヤー約200人が出場し、35人がホールインワンを達成しました。

競技は、本丸A・B・C、二の丸A・Bの5コース、45ホールストロークプレーで行われ、参加者たちは、熱戦を繰り広げました。



未来の相馬へつなげる

第二体育館安全祈願祭

「いきます」とあいさつしました。

同施設は、2019年度中の完成を目指して建設が進められます。



（仮称）スポーツアリーナ そうま第二体育館建設工事の安全祈願祭は3月28日、同施設地内で行われ、関係者約40人が参加し施設建設の安全を祈願しました。

神事が行われ、立谷市長や米山光喜市議会議長などが玉ぐしを奉納。

立谷市長は「相馬の未来都市につながる建物をコンセプトとして設計しました。この体育館を力にして、風評被害対策と地方創生に取り組んで

子どもたちの晴れ舞台 第5回エル・システマ子ども音楽祭



「第5回エル・システマ子ども音楽祭in相馬」は3月23日、24日、市民会館で開かれ、子どもたちが日ごろ練習してきた演奏や歌声を披露しました。

23日は、第1部に中村一中、中村二中、向陽中学校の吹奏楽部などがJ.スウェアリンジェンの「ロマネスク」などを演奏し、第2部では相馬子どもコーラスが古橋富士雄さんの指揮のもと、ラッキィ池田さん、彩木エリさんの振り付けの踊りを交えて合唱組曲「日曜日〜一人ぼっちの祈り〜」などを合唱したほか、ソ

プラノ歌手のコロナえりかさんをゲストに迎え、ディエゴ・モントの「3つのわらべ歌」などを一緒に歌いました。

24日は、相馬子どもオーケストラが河合尚市さんの指揮のもと、G.ホルストのブルックグリーン組曲「第1楽章プレリユード」などを演奏したほか、特別出演として音楽を通して被災地を支援するために参加したオックスフォード大学管弦楽団が組曲「惑星」より「木星」やステーション・フェルヘルストの「日本に捧ぐ歌」などを演奏しました。



音楽祭のフィナーレには、相馬子どもオーケストラと相馬子どもコーラス、オックスフォード大学管弦楽団、相馬合唱団エスポワールが一体となりエドワード・エルガーの行進曲「威風堂々」などが披露され、会場の観客はスタンディングオベーションが起こるほど盛り上がり、興奮冷めやらぬ中音楽祭は幕を閉じました。

磯部の元気を踊りにのせて 磯部子供手踊り

磯部子供手踊りは3月30日、31日、磯部水産加工施設や鷲山集会所など6カ所で行われ、児童ら約30人が披露しました。

磯部子供手踊り会の主催。磯部地区伝統の子供手踊りは、地区の復興を祈願するとともに、子どもたちの踊りをおして地域に元気を与えるために行われました。

当日は雨が降るあいにくの天気でしたが、子どもたちは日ごろから一生懸命練習してきた手踊りを披露し、観客らは盛大な拍手を送っていました。



子育て支援の拠点 放課後児童クラブ 落成式



飯豊小学校放課後児童クラブの落成式は4月3日、同校地内で行われ、関係者約40人が出席し施設の落成を祝いました。

施工業者の伊東建設工業から佐藤憲男副市長に鍵が引き渡され、伊東建設工業と設計を行った小島建築設計事務所、佐藤副市長から感謝状が贈呈されました。

また、東日本大震災で被災した自治体へ木製品の寄贈を行っている農林中央金庫の望月大輔福島支店長と武澤治平相馬地方森林組合代表理事組合長から当児童クラブへ、児童用学習テーブルの寄付が行われました。

交通事故を減らす 街頭啓発キャンペーン

新入学児童と園児の交通事故防止街頭啓発キャンペーンは4月6日、シヨッピンングタウンベガイオン相馬店で行われ、関係者約20人が参加しました。

林成徳相馬地区交通安全協会会長が「新入学児童に交通安全を呼びかけ、一件でも交通事故を減らしましょう」とあいさつし、街頭啓発が開始されました。



チラシや反射材を配り、交通事故防止を呼びかけました。

交通意識の高揚へ

交通教育専門員委嘱状交付式



市交通教育専門員の委嘱状交付式は4月10日、市役所で行われ、6人の専門員に委嘱状が手渡されました。

委嘱状を手渡した佐藤憲男副市長は「皆さんのご協力で児童生徒の交通事故が減り、通学時の安全・安心につながっています。これからもよろしくお願いします」とあいさつしました。

交通教育専門員は、本市における交通安全知識の普及や交通安全思想の高揚を図るため、登校する際の交通指導や学校での交通安全教室などを行っています。

スポーツを通じて交流 スポーツ少年団結団式



市スポーツ少年団結団式は4月7日、スポーツアリーナさうまで開かれ、バレーボールやサッカーなどの5種目の団員と指導者などあわせて28

チーム、211人が参加しました。市スポーツ少年団は、地域の指導者や保護者の協力を得ながら各種大会に積極的に参加するなど、スポーツ活動の中心的存在として活発な活動を展開しています。

続いて行われた親善スポーツ大会では、中井田昞里さん（相馬市剣道教室スポーツ少年団）の元氣な選手宣誓のあと、3本の綱のうち2本の綱を先に取った方が勝ちとなる「よくばり綱引き」を開催。



保護者の声援を受け、団員は元氣に綱を引き合っていました。

桜が咲き誇る中の乗馬体験



甲冑着付けと陣羽織での乗馬体験「一日騎馬武者」は4月7日、千客万来館などで行われ、県内外から3人が参加

しました。

このイベントは、甲冑の着付けと陣羽織での乗馬を体験するもので、相馬の伝統行事「相馬野馬追」を活かした観光交流人口の拡大を目的に、宇多郷騎馬会の協力のもと開催。

当日は天候にも恵まれ、咲いたばかりの桜とぼんぼりを眺めながら馬陵公園内の乗馬体験を楽しみました。

参加者は「武者姿に憧れていたので甲冑を身に着けるこ

一日騎馬武者

とができた上に、乗馬体験もできて本当にうれしいです」と感想を述べました。

